

- ・自分が行きたい所がどこなのかと忘れてしまうこともあり、杖などを持たせるようにしています。慣れているところでも何か気になることがあったりすると分からなくなったりもします
- ・遠くには行かない。今のところ病院は親と一緒にいる。何回病院通いしても道を忘れる
- ・毎日決まった場所へはひとりで行けるが、初めての場所には一人で出かけられず、親だけでは対応できない。移動支援として携帯などではなく人の支援（特に同年代）が欲しい
- ・車に乗らないから（運転しないから）駅で父に頼んで乗せてもらうことがあり、すまないと思う
- ・外出をして歩いていると、歩き方が変なせいかわりに近づく人たちに変な目で見られる。同じ会社の女性に自分の歩き方に対してばかにされる（マネされる）自転車に乗っているとぎぎが悪いせいか警察官に呼び止められ質問される。不安だ。上記のようなことがあるため、あまり外出できない
- ・とにかく一人で歩けないので、常に見守り介護が必要。もし迷子とかなったら大人なので泣くわけにはいかない、子供の迷子と違って家族がひたすら探さずにはいられない
- ・道の渋滞具合まで想定できない
- ・勤務先への送り迎えを親が毎日していますが、都合が悪いときに代わりに支援していただけるような障害者の支援制度があればと思います
- ・使える交通手段（電車・バス）が家の近くにない。自転車に乗れない私にとっては、駅に行くことさえ制限される（足に障害がある）
- ・地下鉄で地上からコンコースまでのエレベーターの所在が分かると助かります
- ・まだ仕事をしていないので、車で行くところも限られる
- ・JRの自動改札口にて、入る時、前の人と近づいてはいると券が戻ってきて扉が閉まってしまうのを理解できなくて、戻ってきた券を握ってしまっている扉を押しあけて進んでいってしまうことがありました。このときは家族と一緒にいましたが、作業所へ通うときは1人で電車に乗っていきますので、何かあったとき駅の方にも障害を理解して対応していただけると良いのですが…。
- ・今まで一人で外出はありません。
- ・東鉄バスは平日8時台のバスが無くなった。休日バスの本数が少ない
- ・いつも家族と一緒になので書きようがない
- ・一人で外出はできません。
- ・一人で外出させることができません。付き添う者がいないと困ります。相談するところもあります
- ・たまに外出先から（夫）主人に電話（携帯）することがあります。言葉はできませんが、音声で判断（状況）してもらっています。時々近くを歩いている人に電話に出てもらって主人と連絡を取っています。はじめはびっくりしてなかなか電話をとってくれません（通行人）。急なので意味がわからず、なのだと思います。
- ・常時介護が必要な人は、外出すらできません。我が家で介護しているときに2階に洗濯物を干すのさえ長いロープを主人の足にくくりつけ、動いた時には1階に降りてくるころがありました。重度の人がいることも考えてください
- ・道路の段差の傾きが困ります
- ・外出に関しては、常にトイレの場所を気をつけている。本人が急に行きたいと言うとき、すぐ見つからないと漏らしてしまうことがあるので、前もってわかっていたら便利。まだまだ周りの理解がないので変な人と見られてしまうことがある。
- ・アンケートには回答しましたが、すべて介助者である私（妻）と一緒にいるので、アンケート回答として有効かは不明です。いずれ使用できることを目標として、思い出させているところです。上記プロジェクトはとてとても良いと思います。一度にすべてが検索できる（トイレや車イス走行可能か）ことはすごいと思います。実際に、公共機関を使いたくても、トイレあるか、車イス入れるか下調べをしないと行けないと思うと、タクシー等を利用してしまいます。また、これらをどこで調べれば不明です。一日も早いプロジェクトの実施を望みます。
- ・車イスでバスや電車の乗り方が分からない!!段差があると動けない!!自分で目的の場所まで行けないので介護者が絶対必要!!頭部外傷の後遺症の影響で起こる頭痛で外出を拒否することが多い
- ・外出先でアクシデントがあると対応できない。
- ・携帯を所持していたら駅の改札で気づいてほしい
- ・駅まで行くのに不便

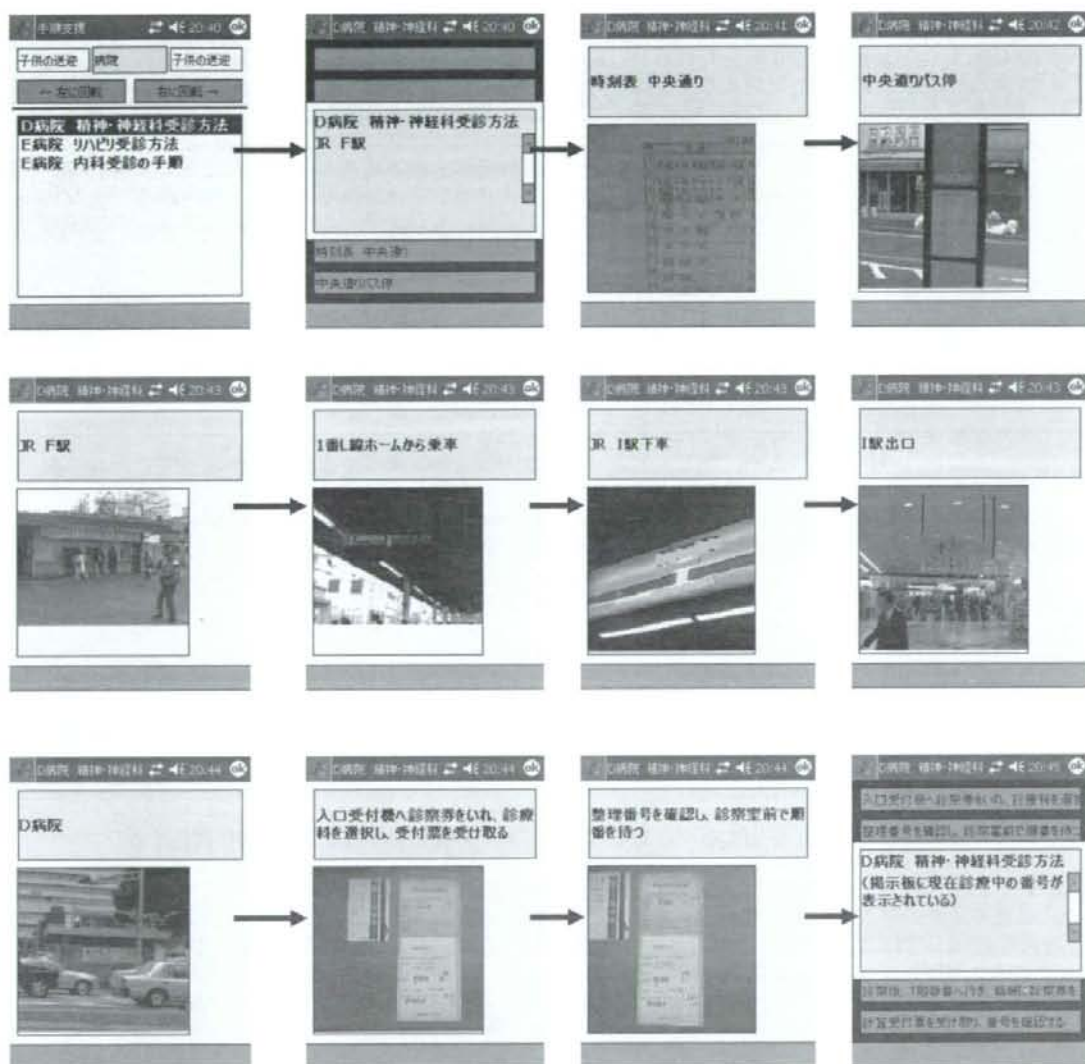


図1 高次脳機能障害者への移動支援（ケーススタディ）で活用したデータ：前半
 携帯情報端末の画面：作業手順（道順と病院の受け手順）の例
 画面タッチで手順が進む（一部の固有名詞を改変）

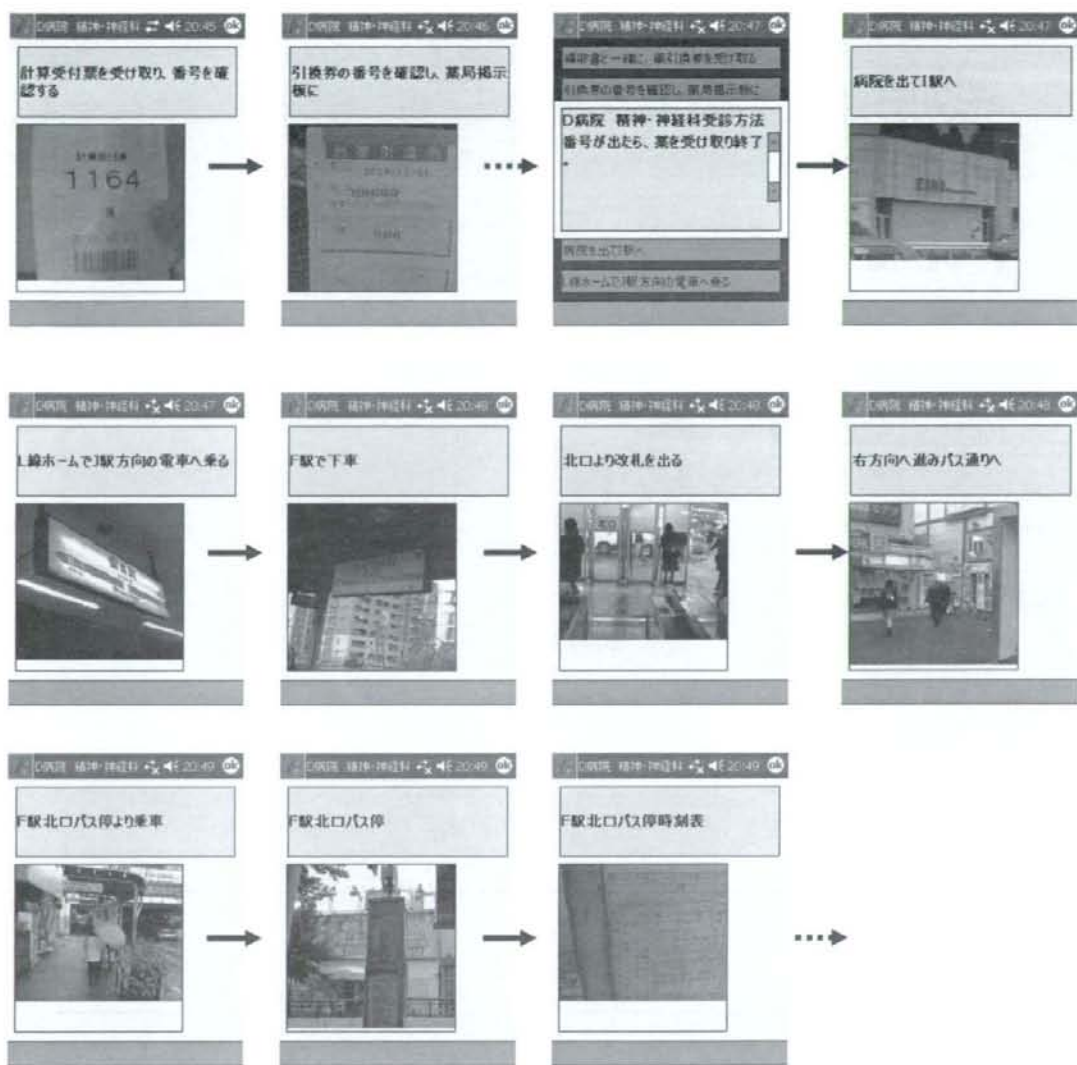


図2 高次脳機能障害者への移動支援（ケーススタディ）で活用したデータ：後半携帯情報端末の画面：作業手順（道順と病院の受け付け手順）の画面タッチで手順が進む（一部の固有名詞を改変）

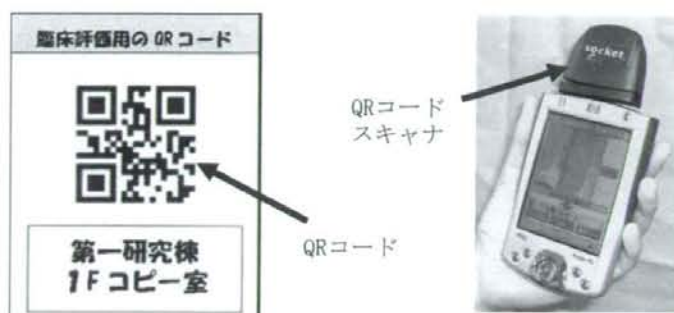


図3 紙タグの一例とQRコードリーダー



図4 経路表示PDA画面の一例



図5 視線検出装置

(株式会社ナックイメージテクノロジー製、
アイマークレコーダーEMR-8B)

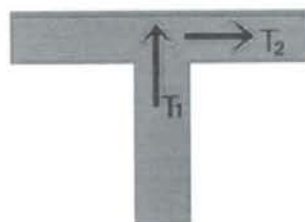


図6 B-5-2 T字路におけるタグの設置位置に
ついての実験で利用したT字路の概念図



図7 T字路におけるタグの設置位置について
の実験での半側空間無視状態の模擬

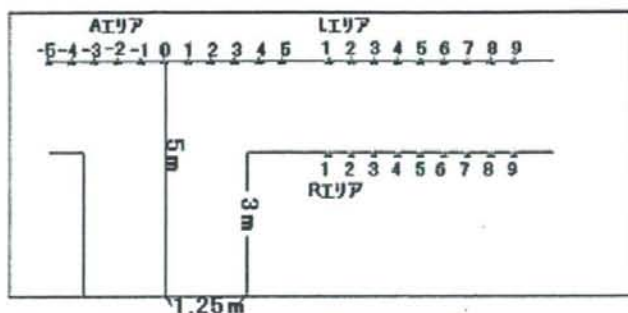
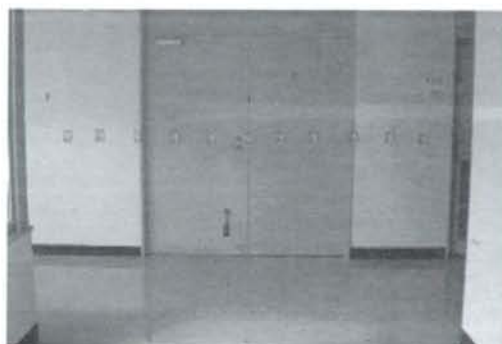


図8 T字路におけるタグの設置位置についての実験におけるエリア分け



Aエリア



Lエリア・Rエリア

図9 T字路におけるタグの設置位置についての実験における各エリアの様子



図10 視線検出装置で得られた注視点のデータの一例 (□印が注視点)

障害者を支援する専門職に対するアンケート調査の結果を以下の図11から図34に示す。

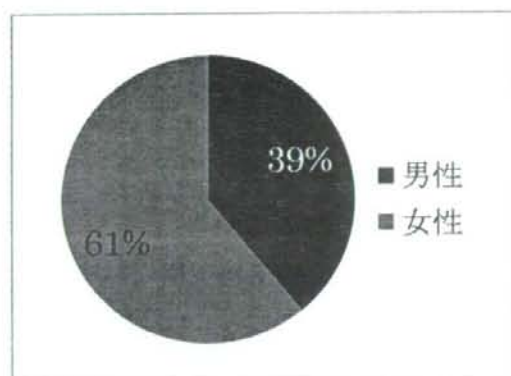


図11 回答者の性別 (N=59)

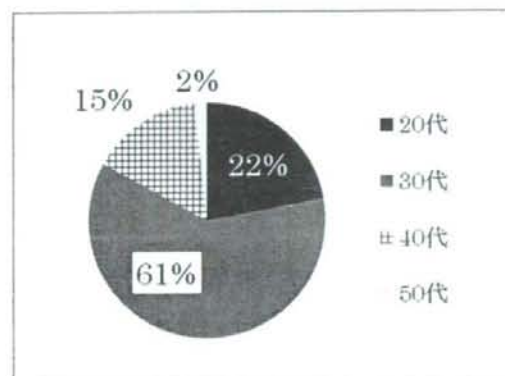


図12 回答者の年齢 (N=59)

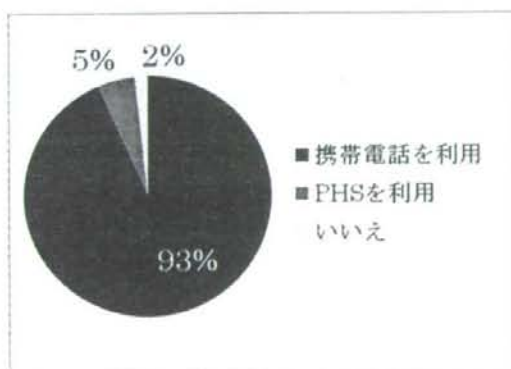


図13 携帯電話・PHS利用者 (N=59)

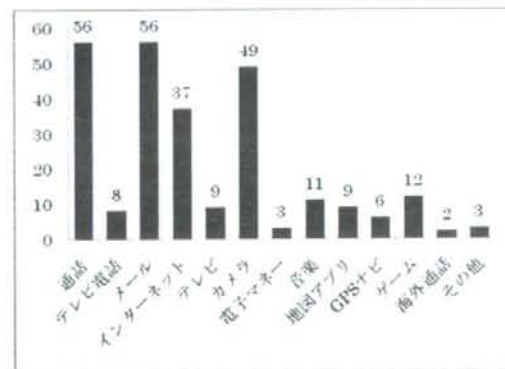


図14 携帯電話で使用している機能

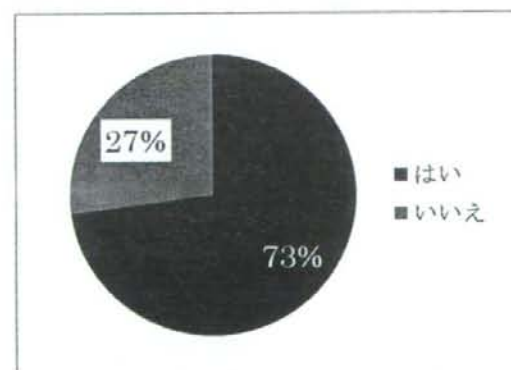


図15 視覚障害者支援の仕事をしているか? (N=59)

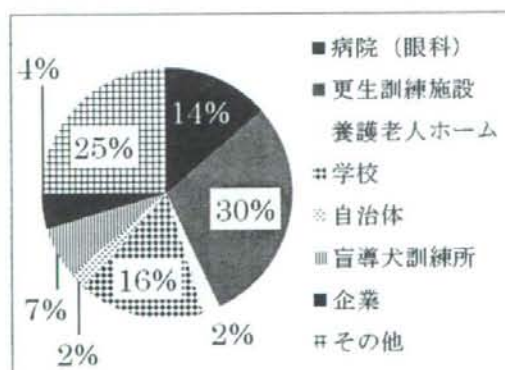


図16 視覚障害者支援の勤務先 (N=44)

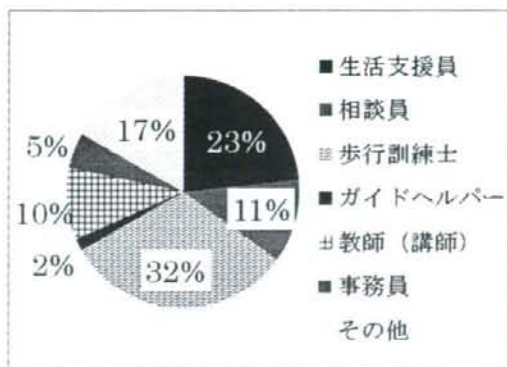


図17 視覚障害者支援の職種 (N=60)
(複数回答あり)

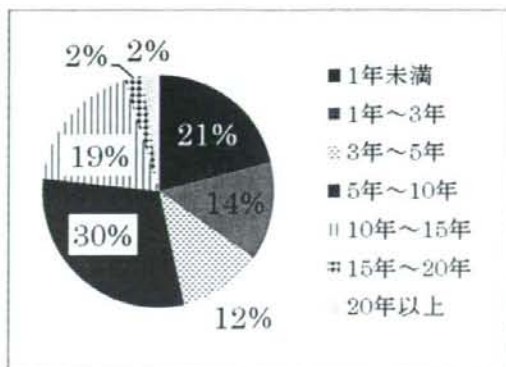


図18 現在の職場の勤務年数 (N=43)

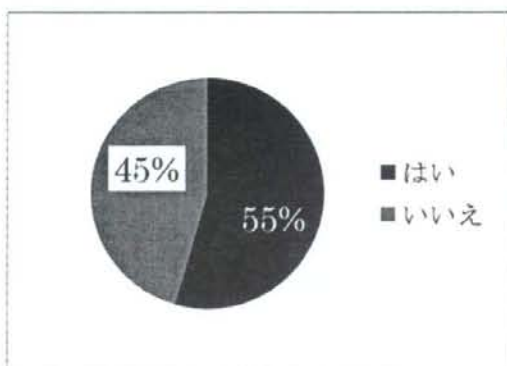


図19 視覚障害者への歩行訓練を行っているか
(視覚障害者対象) (N=23)

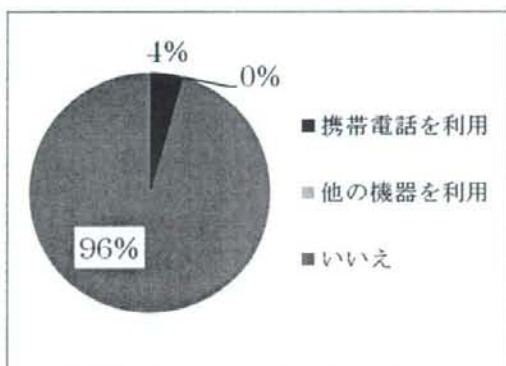


図20 歩行訓練での携帯電話使用 (N=44)

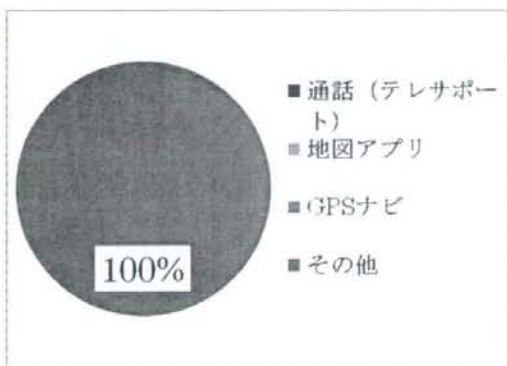


図21 歩行訓練時に使用する機能 (N=1)

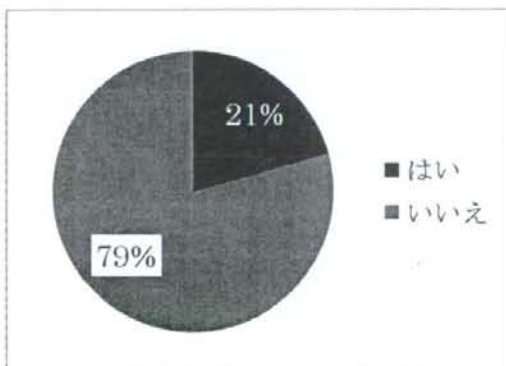


図22 視覚障害者以外の歩行訓練経験はあるか？ (N=58)

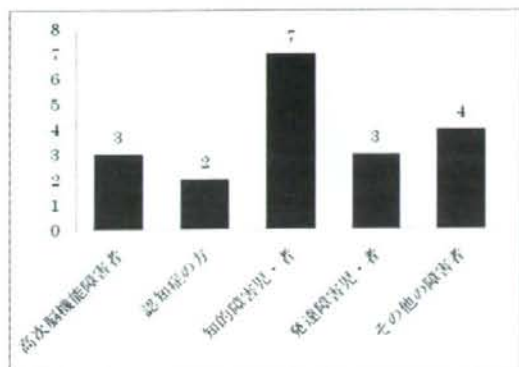


図23 歩行訓練対象者の疾患

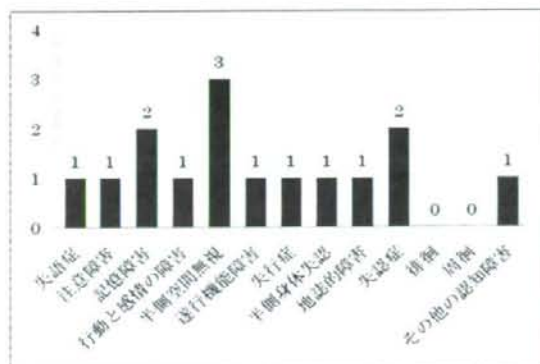


図24 歩行訓練対象者の症状 (高次脳機能障害)

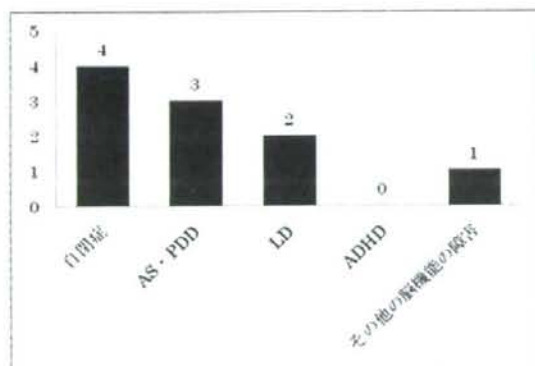


図25 歩行訓練対象者の症状 (知的障害・発達障害)

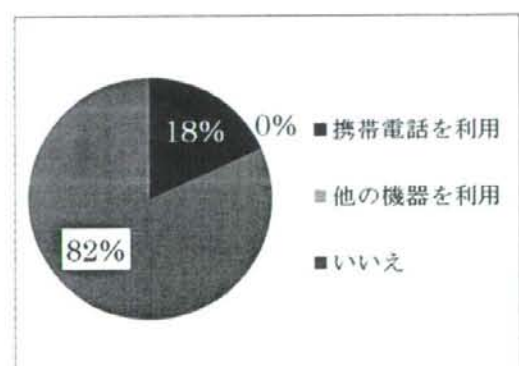


図26 歩行訓練での携帯電話使用 (視覚障害者以外を対象)

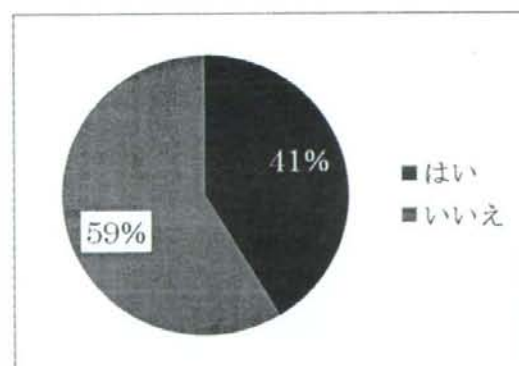


図27 移動支援プロジェクトを知っているか (N=58)

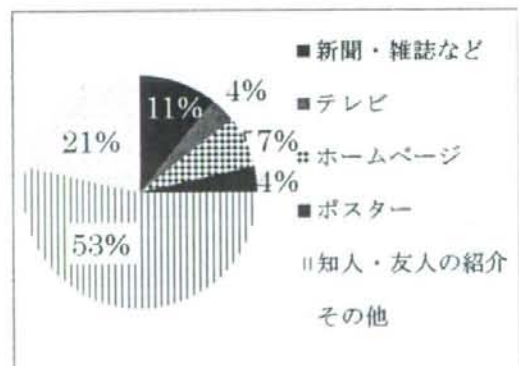


図28 移動支援プロジェクトをどこで知ったか (N=28)

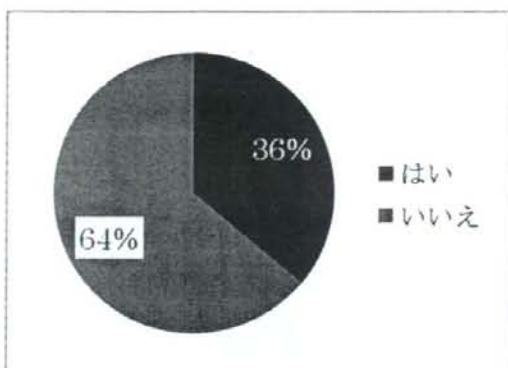


図29 移動支援プロジェクトの参加経験はあるか (N=25)

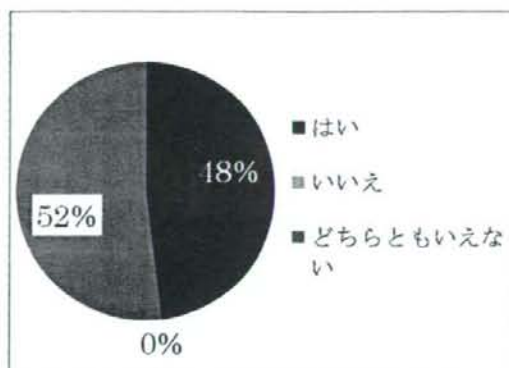


図30 移動支援プロジェクトは有効だと思うか (N=25)

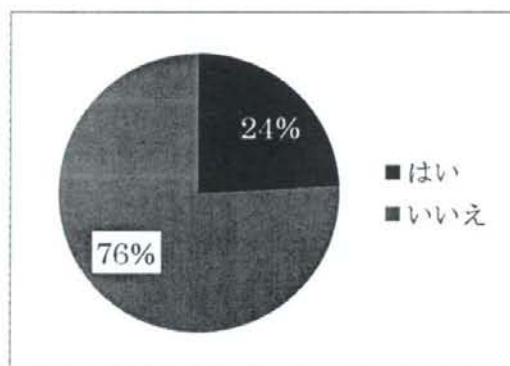


図31 障害者ITバリアフリープロジェクトを知っているか (N=58)

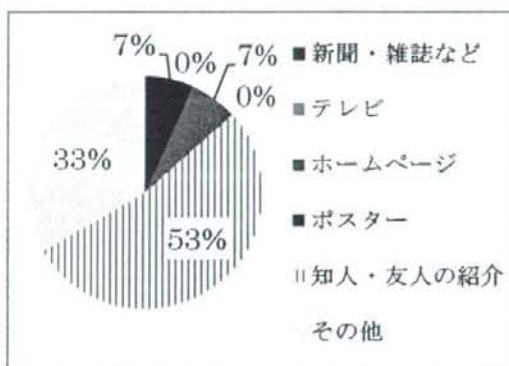


図32 障害者ITバリアフリープロジェクトをどこで知ったか (N=15)

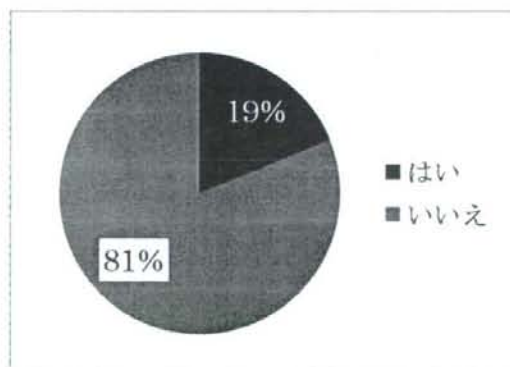


図33 障害者ITバリアフリープロジェクトの参加経験はあるか (N=16)

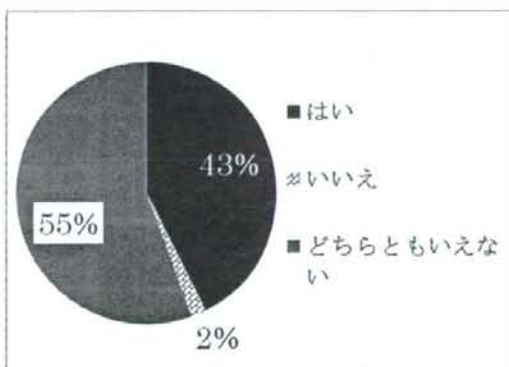


図34 障害者ITバリアフリープロジェクトは有効だと思うか (N=54)

高次脳機能障害のある当事者、ご家族に対するアンケート調査の結果を以下の図35から図63に示す。

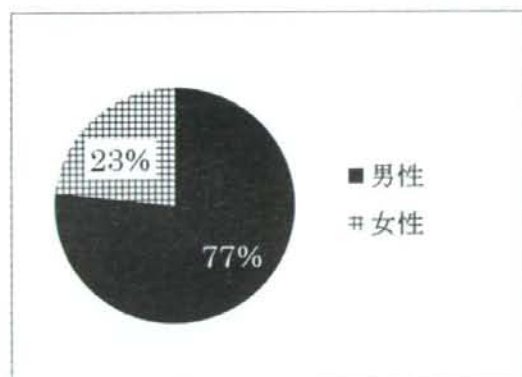


図35 回答者の性別 (N=293)

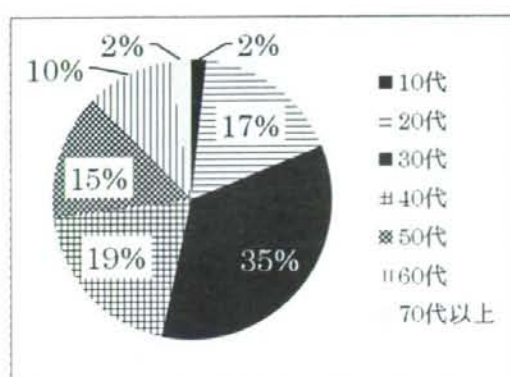


図36 回答者の年齢 (N=292)

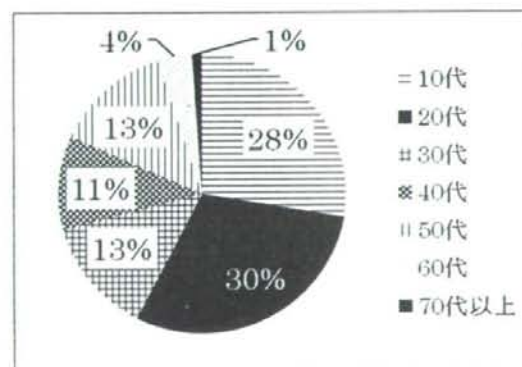


図37 受傷（発症）時期 (N=285)

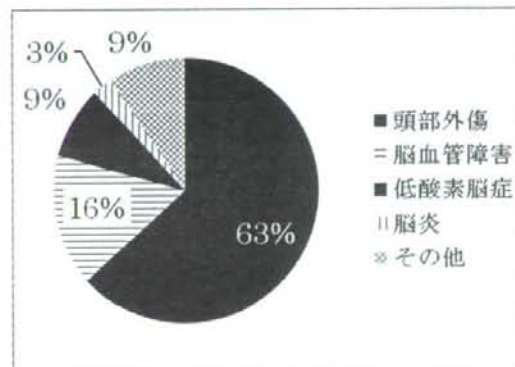


図38 原因疾患 (N=301)

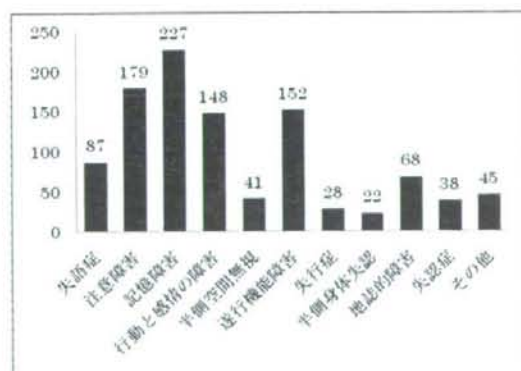


図39 高次脳機能障害の種類（複数回答可）

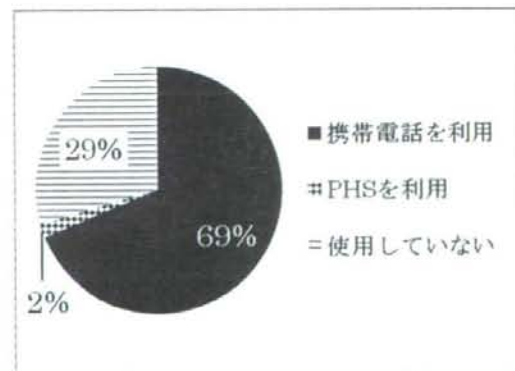


図40 携帯電話・PHS使用者 (N=289)

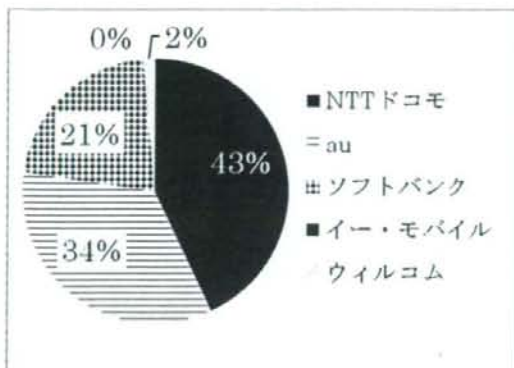


図41 使用している携帯電話・PHS会社 (N=207)

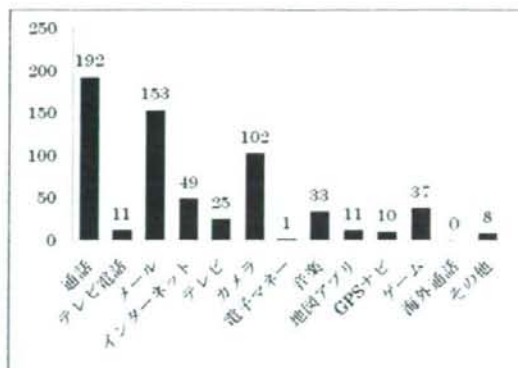


図42 携帯電話で使用している機能

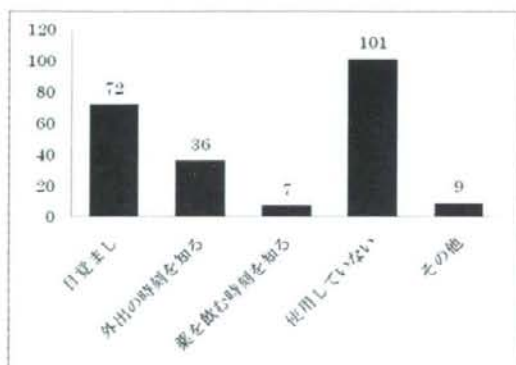


図43 アラーム機能の使用場面

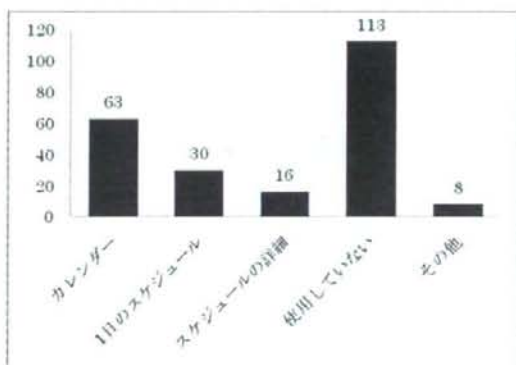


図44 スケジュール機能の使用場面

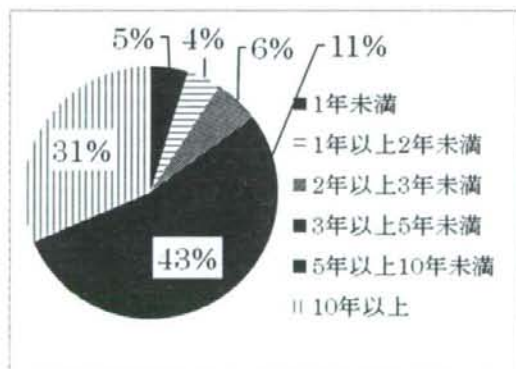


図45 携帯電話・PHSの使用年数 (N=188)

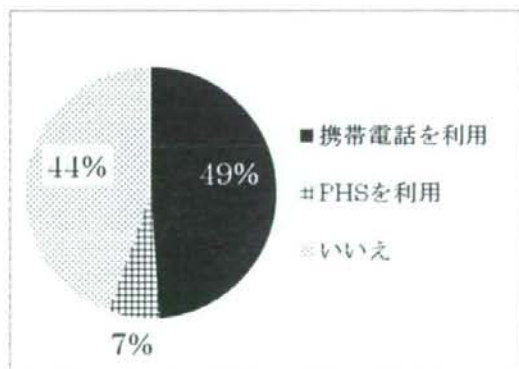


図46 受傷(発症)前の使用 (N=272)

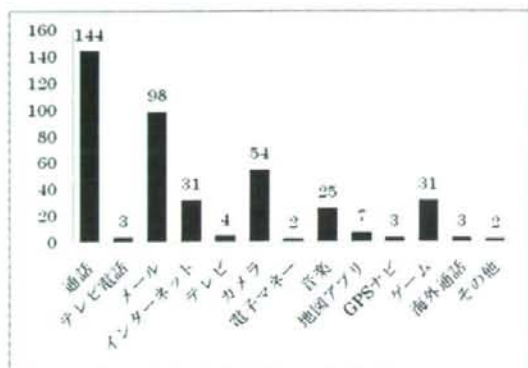


図47 受傷（発症）前に使用していた機能

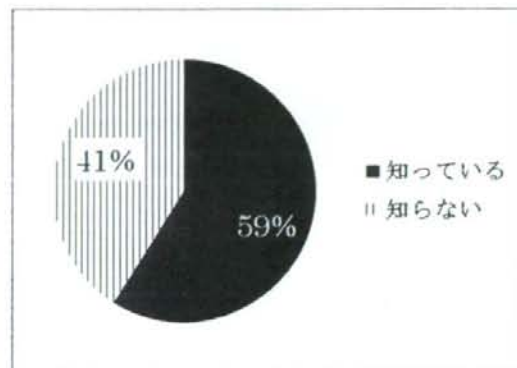


図48 携帯電話の文字の大きさを変えられることを知っているか (N=168)

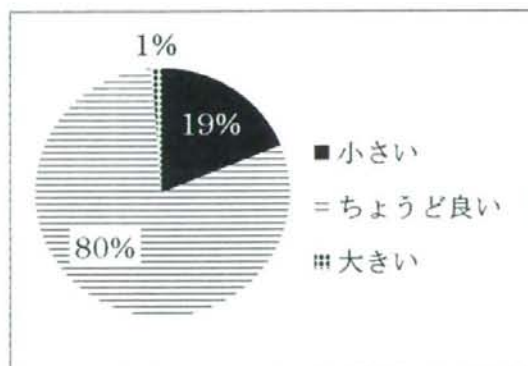


図49 携帯電話の文字の大きさ (N=154)

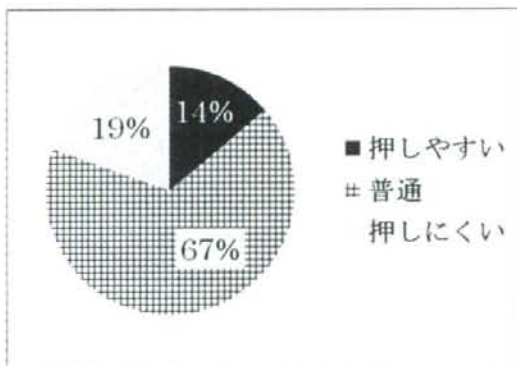


図50 ボタンの押しやすさ (N=159)

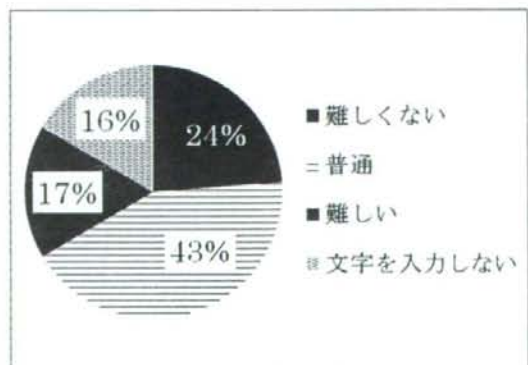


図51 文字の入力方式の難しさ (N=164)

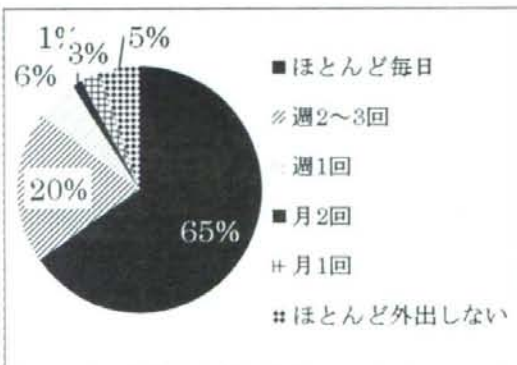


図52 外出の頻度 (N=286)

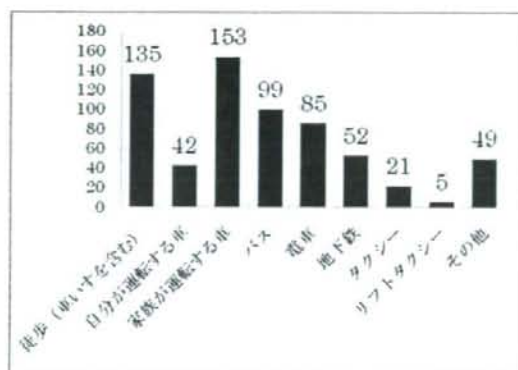


図53 主な外出手段

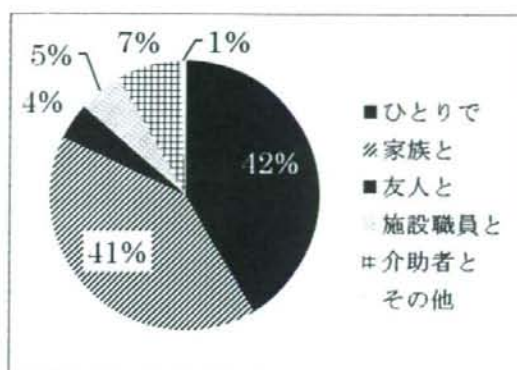


図54 誰と外出することが多いか (N=390)

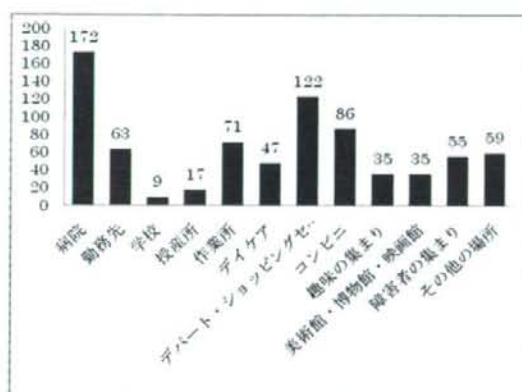


図55 主な外出先

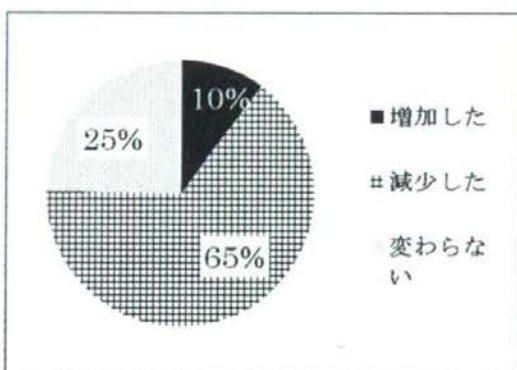


図56 受傷（発症）後の外出頻度 (N=279)

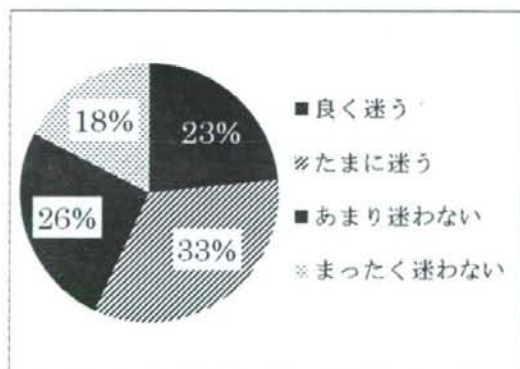


図57 道に迷うことはあるか (N=257)

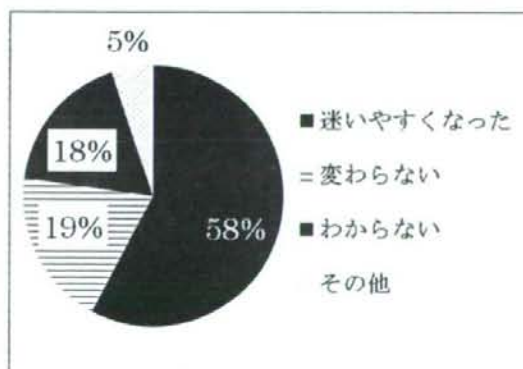


図58 受傷（発症）前との比較 (N=232)

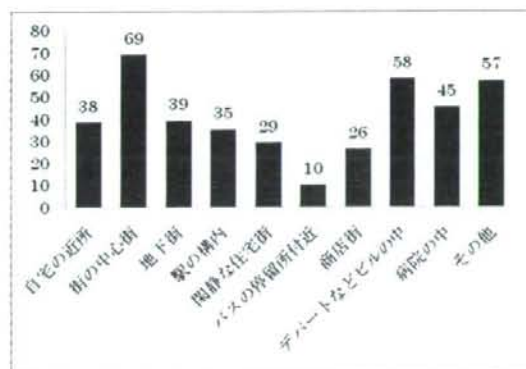


図59 迷ったことのある場所

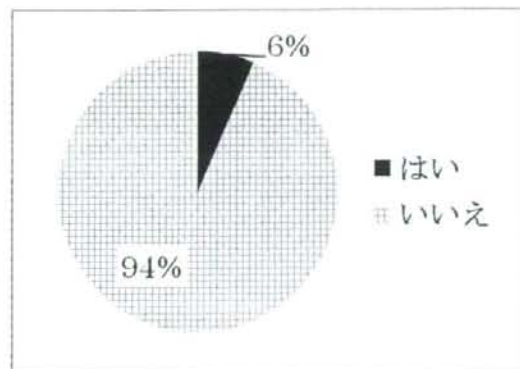


図60 移動支援プロジェクトを知っているか？ (N=278)

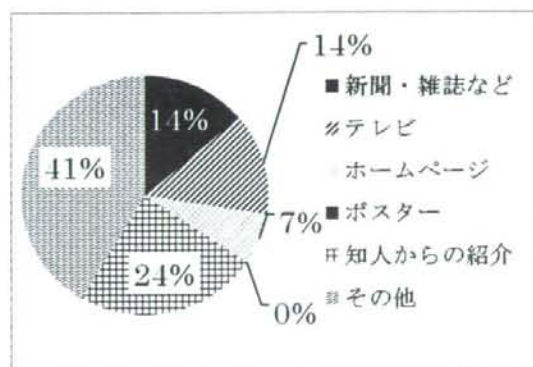


図61 移動支援プロジェクトをどこで知ったか？ (N=29)

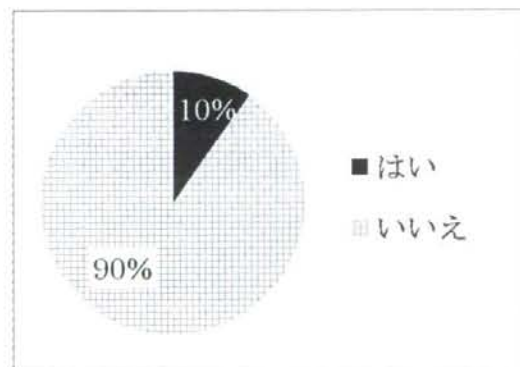


図62 移動支援プロジェクトに参加したことはあるか？ (N=41)

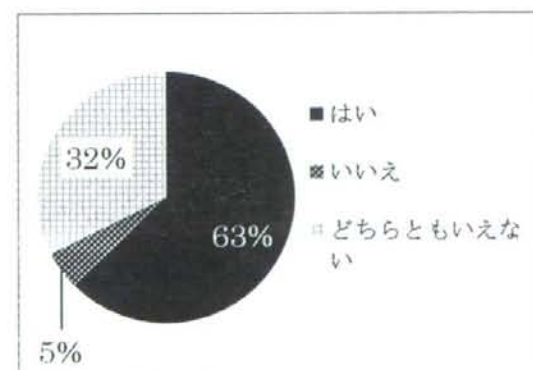


図63 移動支援プロジェクトは有効だと思うか？ (N=266)

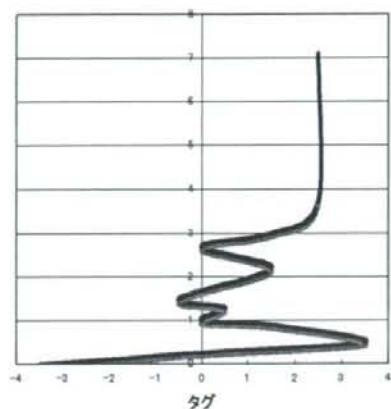
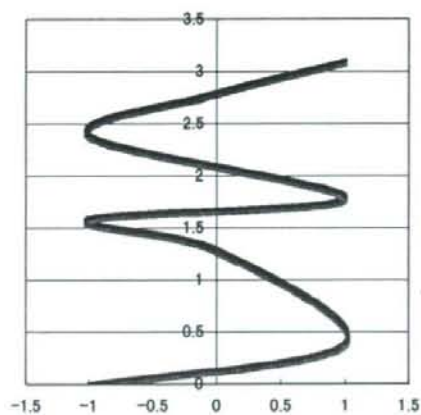


図64 タグ1読み取り後の視線の左右の動きの例 図65 タグ2群の注視の推移の例
 (被験者1、タグ1が左側、タグの間隔が4[m]の時)

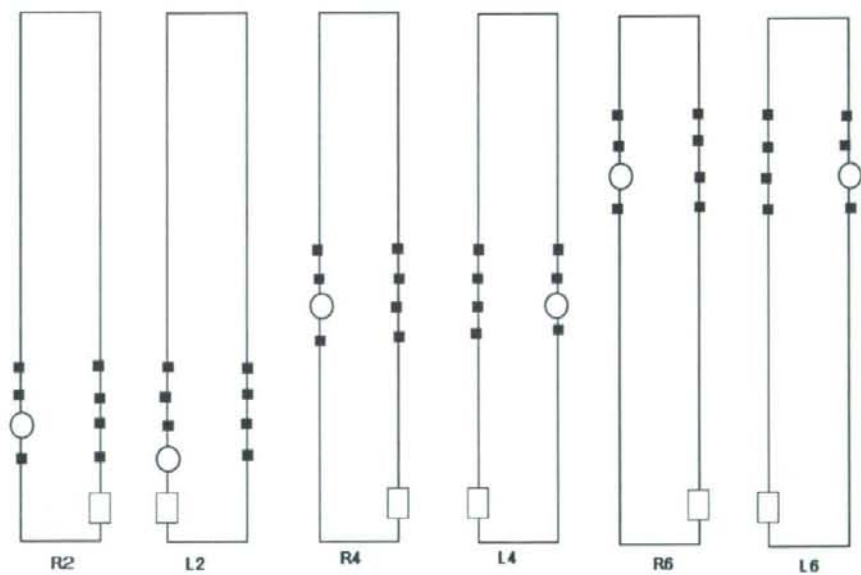


図66 タグ2群から選択したタグの位置 (被験者1、左右で2m、4m、6mの6ケース)

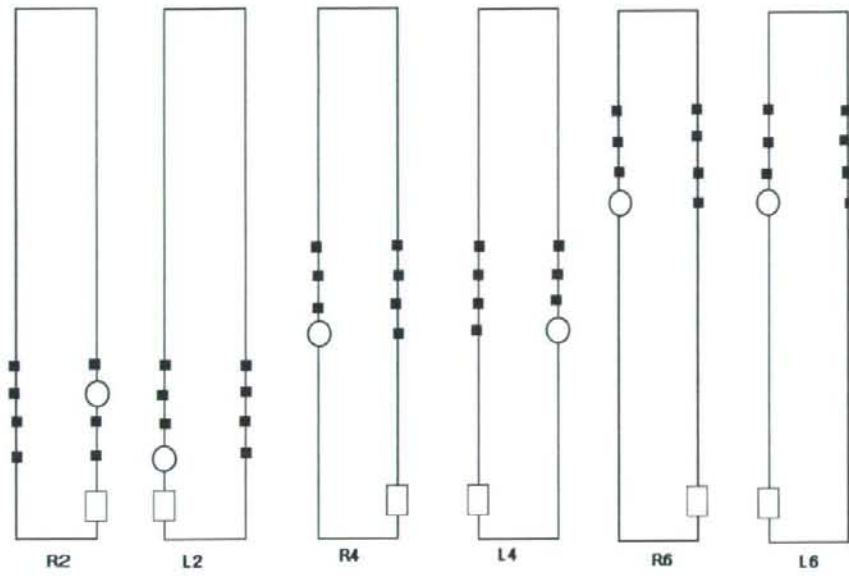


図67 タグ2群から選択したタグの位置 (被験者2、左右で2m、4m、6mの6ケース)

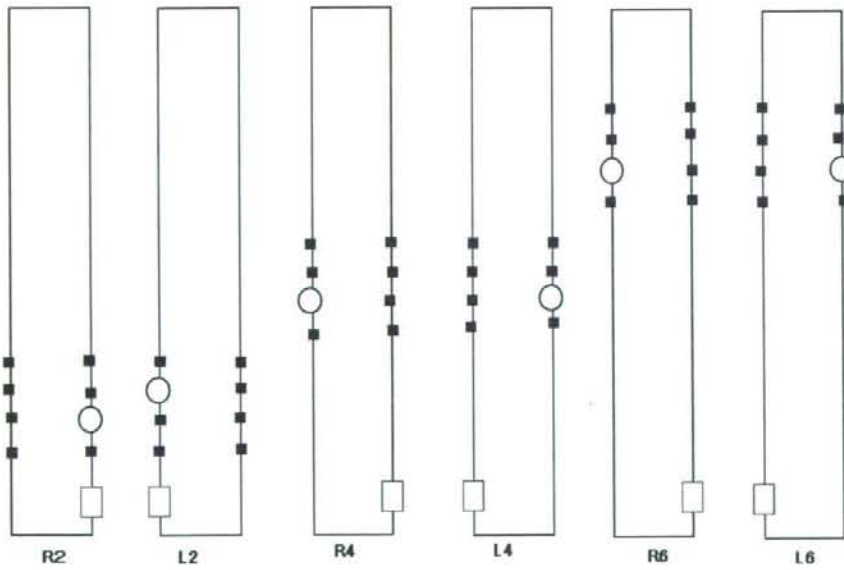


図68 タグ2群から選択したタグの位置 (被験者3、左右で2m、4m、6mの6ケース)

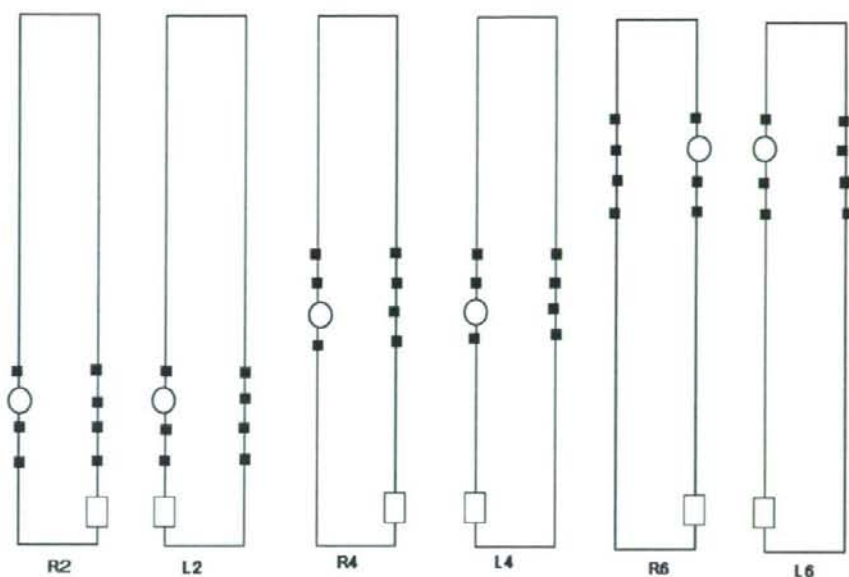


図69 タグ2群から選択したタグの位置（被験者4、左右で2m、4m、6mの6ケース）

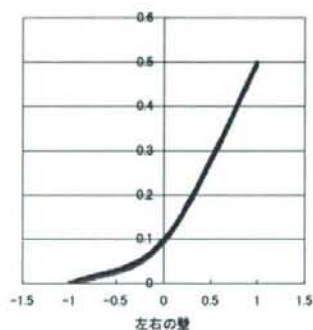


図70 タグ1読み取り後の視線の左右の動き
（被験者5、タグ1が右側、タグの間隔が2[m]の時）

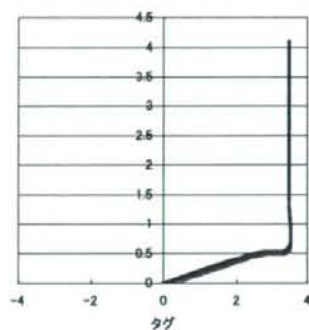


図71 タグ2群の注視の推移

（被験者5、タグ1が右側、タグの間隔が2[m]の時）全くきょろきょろせずすぐにタグを決定した

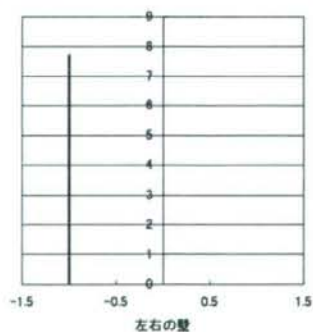


図72 タグ1読み取り後の視線の左右の動き

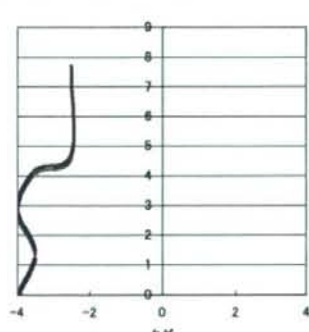


図73 タグ2群の注視の推移

（被験者5、タグ1が左側、タグの間隔が2[m]の時）タグ1を読み取ったあと、左右を間違えて進行方向の逆に進んでしまった。目に入ったタグを読み取るようで、右側の壁は一切見なかった。

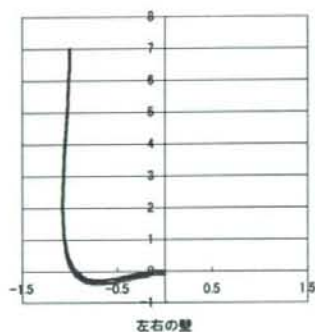


図74 タグ1読み取り後の視線の左右の動き
(被験者5、タグ1が右側、タグの間隔が4[m]の時)
右側の壁は全く見ていない。同じ側の壁に貼ってあるタグは見えにくいと予想される。

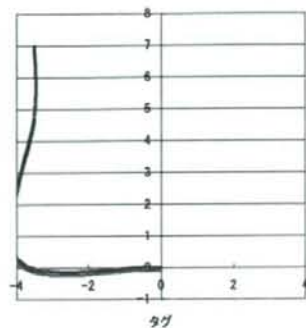


図75 タグ2群の注視の推移

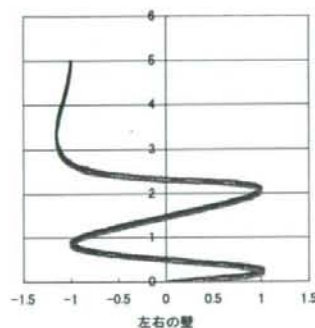


図76 タグ1読み取り後の視線の左右の動き
(被験者5、タグ1が左側、タグの間隔が4[m]の時)

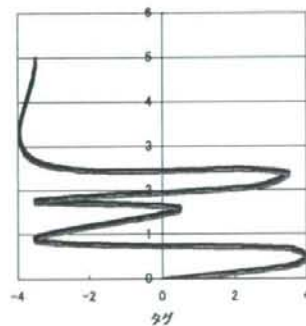


図77 タグ2群の注視の推移

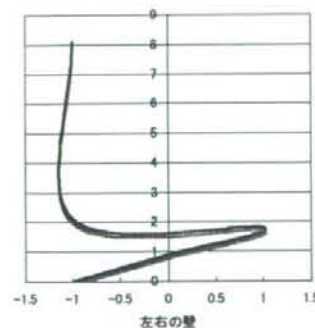


図78 タグ1読み取り後の視線の左右の動き
(被験者5、タグ1が左側、タグの間隔が6[m]の時)

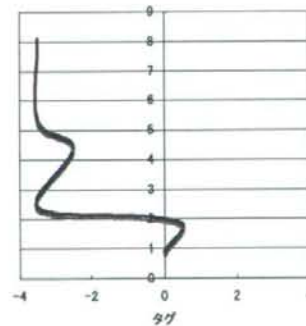


図79 タグ2群の注視の推移

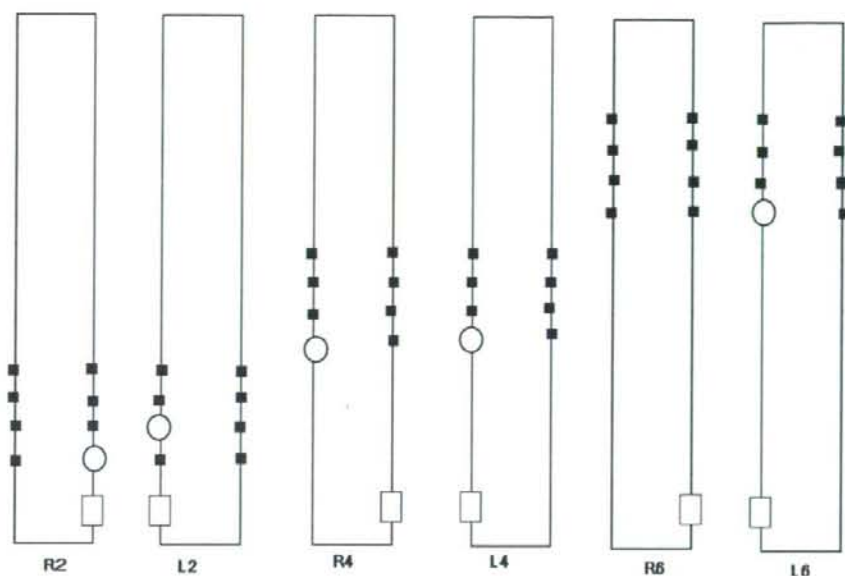


図80 タグ2群から選択したタグの位置 (被験者5、左右で2m、4m、6mの5ケース)

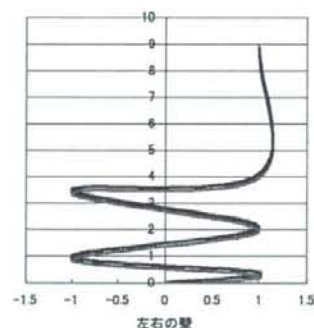


図81 タグ1読み取り後の視線の左右の動き

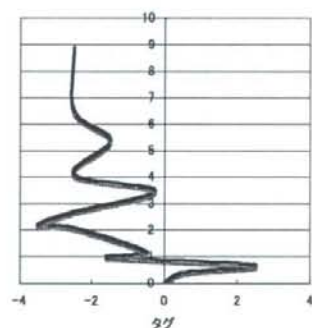


図82 タグ2群の注視の推移

(被験者6、タグ1が右側、タグの間隔が2[m]の時) タグ群の前に立ってから左右にきょろきょろする傾向

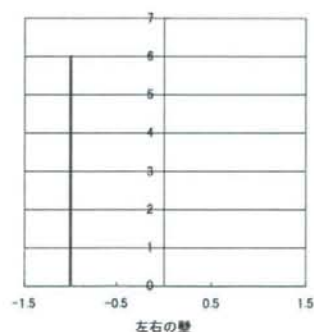


図83 タグ1読み取り後の視線の左右の動き

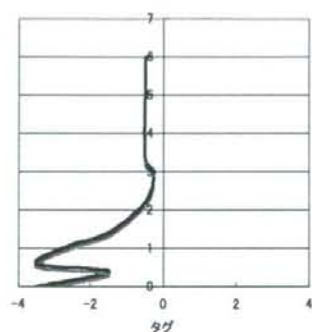


図84 タグ2群の注視の推移

(被験者6、タグ1が左側、タグの間隔が2[m]の時)

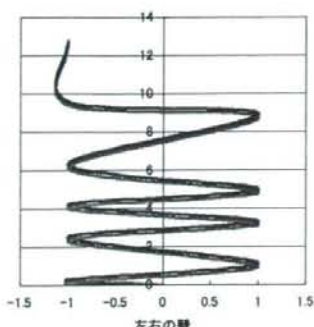


図85 タグ1読み取り後の視線の左右の動き
(被験者6、タグ1が右側、タグの間隔が4[m]の時)

タグ群の前に来てから左右の壁できょろきょろと迷っていた。

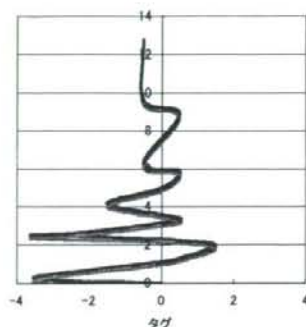


図86 タグ2群の注視の推移の例

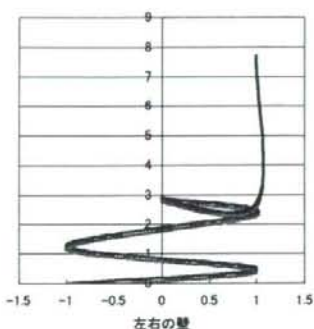


図87 タグ1読み取り後の視線の左右の動き
(被験者6、タグ1が左側、タグの間隔が4[m]の時)

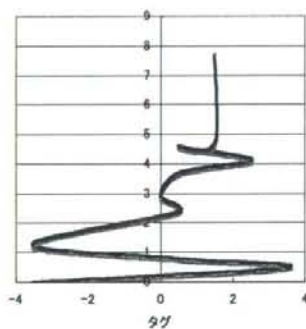


図88 タグ2群の注視の推移

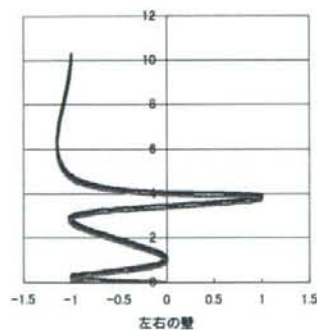


図89 タグ1読み取り後の視線の左右の動き
(被験者6、タグ1が右側、タグの間隔が6[m]の時)

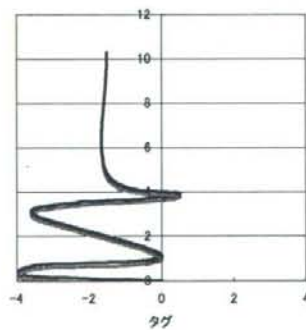


図90 タグ2群の注視の推移